

子どもが学びを実感できる授業を目指して

札幌市立北都小学校

I 取組の重点

1 テーマ

子どもが学びを実感できる授業をめざして

2 テーマの意図

(1) 基礎基本の着実な定着を図る

基礎基本の力なくして、子どもたちが自ら考え判断しながら学習を進めていくことは難しい。ベースとしての基礎基本の力をつける日常的取組を図る。

(2) 自ら考え進んで取り組む子をめざす

子どもが事物に働きかけ、見通しをもって取り組むことや集団の中でかかわり合って学ぶことにより、子どもが学びを実感することができる。

基礎基本の充実
集団の学び合い

3 本校における全国学力・学習状況調査等の活用の進め方

(1) 授業改善の一環として、全国学力・学習状況調査の結果を活用した。合わせて全学年で毎年行っている学力テストの結果も活用した。

① 全国学力調査結果や学力テスト結果の分析から本校の傾向を掴む

② 昨年度の結果と比較して成果と課題を明らかにする

③ 研究部は結果分析を元に授業改善の方向性を提案する

(2) 学習状況調査の結果を指導資料の一つとして活用した。

① 学習状況調査の結果の分析から、本校の「朝の活動の時間」のあり方の検討・日課表の見直し

② 学級活動の指導資料として活用

授業改善に向け
て

子どもの生活に
生かす

II 取組の具体化

1 本校における学力・学習状況に関する課題～全国学力・学習状況調査等から

(1) 学んだことを活用することに課題

表現や叙述に即して読むことや段落の内容をとらえることに課題がある。また、位取りや分数の意味などについての理解に難がある。

(2) 基礎的な学力に課題

国語では、読み取ったことを要約したり、思ったことや感じたことを表現したりすることが苦手である。また算数では、表現・処理の部分に課題が残る。

活用する力と
基礎的な学力

2 改善策の具体化

(1) 個に応じた少人数授業(複数教師によるきめ細かい指導)

国語・算数を中心にTTを含めきめ細かい指導をすることで、学習した内容を理解すると共に応用発展できるよう、個々にかかわりながら活用する力を育てる。

(2) 基礎・基本の着実な定着を図るための手だて

子どもたちが自ら考え進んで取り組むためには、学習意欲・問題解決的な学習の方法を学ぶと共に、そのベースとなる基礎・基本の充実が欠かせない。そこで、朝と放課後に基礎学力の定着のための指導を行う。

① 朝の国語・算数チャレンジタイム

少人数指導と
基礎基本の定着
をめざして

火曜日と木曜日に国語と算数のスキルタイムを実施する。

- ② 全校一斉放課後指導
会議のない火曜日の5校時終了後、全校一斉に放課後指導を行う。

Ⅲ 取組例の実際

1 TTなどを活用した算数の少人数指導

(1) 2クラス4人体制の少人数指導(学年一斉)

① 4年生「分数」

普段から実施しているTTでの学習から、「分数」の理解度に子どもたちのばらつきがあるということで、学年の先生と相談し、教師3人体制で3つのグループに分けて4時間の少人数指導を行った。分数の仕組みの説明からドリルも含め、きめ細かいかわりをする中で、子どもたちの理解が深まった。今まではノートなしでいつも余り紙に書いて済ませていた子が、ノートを用意し記録する姿が見られるなどわかる喜びが、さらなるやる気へとつながっていった。そして単元の終わりのテストでも成果を上げることができた。



② 4年生「わり算の筆算」

2桁÷2桁のわり算の前段階としての2桁÷1桁の理解が不十分な子を重点的に指導しようということを目標に、学年研修にTT担当も参加して指導法や予定について相談した。

本単元の進め方を確認した後は、算数の時間を学年でそろえて、それに合わせてTTの時間も4年生に厚くしながら、各学年との調整を図る作業を始めた。

学年でオリエンテーションを行った後、わり算の学習がスタートした。

初めは「よくわからない」という子が4～5名だったが、学習が進むにつれ、多い時には20名近くまで増えた。そこで、加配の先生も急遽配置し、さらに少人数指導の体制を整えた。

「奇跡だ！俺できた！！」筆算で商を出せた子の喜びの言葉である。また、理解が深まった子で、グループを替えようとしたところ、「まだここに居たい。だって、ここの方がよくわかるんだもん」と言って困っている子に教えようとする動きも出てきた。「わから

なくなったらわかりやすく教えてもらえるからここがいい」など、やる気を出せる自分の居場所を見つけたような子も現れた。このような学習を通し、子どもたちはよく理解できるようになったり、わり算に自信をもったりする子も増えた。この単元の実践を終え、いくつかの成果が見えてきた。

学年単位の
少人数指導

TT担当も含めた
少人数指導

奇跡だ！
俺できた！！

<「わり算の筆算」の取組の流れ>

- ①事前調査・傾向をつかむ
 - ・学年研修で学習予定づくり
 - 時間・・・共通時間割(13時間分)
 - 場所・・・2教室+児童会室
 - ・学習スタイルの確認
 - 担任+TTの3人体制
 - (後に+加配で4人体制)
- ②2桁の数でわる筆算
 - ・学年を3つに分けて学習
 - ・学年を4つに分けて学習
 - ・放課後指導の活用
 - ・学年研修で子どもの理解度の確認
- ③各学級での学習
 - ・学習のまとめ
 - ・テスト
- ④単元を終えて
 - ・学年研修で子どもの育ちの確認
 - ・成果と課題

まず第一に学年の時間割をそろえて、学年で取り組むことで指導が一貫し、学級差がなくなったことが挙げられる。また、グループのメンバーを固定せず、わからなくなったら、自ら児童会室へ移動し、わかったら、すぐに元のグループに戻るシステムにしたことが、子どもたちに有効感を与え少人数指導のよさが生かされた。そして何より、学年研修の時間にTT担当教諭や加配教諭も加わって、子どもたち一人一人の理解について話し合い、各グループごとの進度や学習内容を確認め合うことで、次時の指導に生かすことができた。

学級内での
少人数指導

(2) 学級の中での少人数指導(主に1～3年生)

学年が上がるにつれ、学級の枠を外しての少人数指導が多くの子どもに効果があることがわかったが、本校の児童の実態から低学年では基本的に学級枠の中での少人数指導を行った。

① 2年生「かけ算」の実践

かけ算九九を活用する場面ではどう工夫すると早く簡単に正確にできるかの考え方が重要になってくる。そこで学級を3グループに分けて3人の教師が、1グループずつ担当して、個別にかかわるはたらきかけをした。このグループは理解度別グループではなく生活グループである。授業の開始から30分間はグループ別の学習の時間とし、残り15分間は一斉学習形態にして、学びの成果を確認する方式をとった。



また、九九の定着の場面では個人差が大きくなるため、再び3つのグループに分け、少人数指導を行った。スキル要素が大きいのが、30分間の少人数指導の場面と15分間の一斉授業の形態を取った。

② 1年生「ひき算」の実践

くり下がりのあるひき算では、加減法・減減法などの解き方が出てくる一方、数え引きをする子どもは少なくはない。そこで、どう考えたかをみんなに説明する練習をTT担当教師も交えながらひきざんの学習を進めた。



「はじめに」、「次に」、「最後に」、「だから」といった言葉を用いて説明したり、ブロックを使って操作活動をして説明したりすることで、自分の考えをはっきりさせるとともに友だちの解き方を理解することにもつながった。

具体操作と
説明に使う言葉

2 TTなどを活用した国語の授業

国語の学習では、本校の課題の一つである文章を読み取ることや表現する力を育てるためにTTを活用した実践を行った。

<6年「平和のとりでを築く」の実践から>

① 本時の子どもの目標を明らかにする。

解決への意欲を高めるために、(学ぶ意識を高めるために)、本時の課題を学習の最初に明らかにする。それは、本時の課題に対する自分の考えであり、振り返りで書く内容である。以前は、授業の最後の振り返りでは、テーマを決めず、または、書く段階になって話していたが、このテーマを授業の最初に決めることで、子どもたちは1時間の学習の見通しがもてるようになり、よりの確に書けるようになるなど学習の意欲が高まった。

子どもの目標を
明らかにする

T 2の個別の
きめ細かい支援

② T Tの支援

問題解決的な授業では、大切な言葉に気付き読みを深めたり、見方や考え方を
変えたりしなければならないことがある。子どもたちの考えが行き詰まった
とき、T 2が個別にタイミングよくアドバイスをすることにより、授業の流れ
を切らずに、視点を変えたり気付
けなかった言葉に気付いたりして
学習を進めることができた。段落
構成を考える課題では、子どもた
ちは時系列で分ける見方しかでき
なかったが、T 2の個別アドバイ
スにより、1段落の重 要語句
に気付くことができ、段落の役割
の新たな見方ができた。



また、振り返りの発表において
は、子どもたちの優れた表現をより多く拾いあげ、価値付けをすることができ
た。T Tの支援により、認められて喜ぶ子が増えた。さらに、学習が遅れがち
な児童には、そばについて指示を繰り返したり、ノート指導をしたり、きめ細
かな指導をすることができた。

基礎・基本の着
実な定着に向け
て

3 放課後指導の充実(基礎・基本の定着に向けて)

各学級単位で毎週朝の国語・算数チャレンジタイムを行っている。チャレンジタ
イムでは、国語では漢字練習だけでなく言葉のきまりや文章題・短作文など、また
算数では計算練習だけでなく文章問題にも取り組み、本校の課題の一つである「考
える力」や「書く力」を伸ばすことをめざしている。8時30分から15分間の設定で
あるが、チャレンジ学習を続け定着してくることで登校した子から順次取りみ、そ
れぞれのペースで進めている。

朝のチャレンジ
と放課後指導

放課後指導では、毎週火曜日の放課後全学年一斉に30分程度の時間で国語と算数
の基礎・基本の学習をしている。基本的には、用事のある子以外は全員参加という
形になっている。放課後指導でも低学年は学級単位で、高学年になると、学級の枠
を外して取り組むこともある。国語は主に漢字の読み書きや文法などの言語事項や
作文などを中心に、算数では計算問題を中心に取り組んでいる。高学年では、T T
担当教師も含めて少人数コース別学習も取り入れている。

IV 研究の成果と課題

少人数指導の
有効性

1 本校の取組における成果

- ① 少人数指導の有効性が見られた
少人数指導体制できめ細かな指導を行うことで、子どもたちの学習の理解が着
実に深まってきている。子どもたちの授業への前向きな取組や単元終了後のテス
トの結果からもその効果がみられた。また、学年研修などを通し、子どもの見と
りや授業の進め方などを相談し合い、結果的に教師の授業改善にもつながった。
- ② 基礎・基本の定着が図られた(継続は力なり)
普段の授業の中での練習も含め、朝のチャレンジタイム・放課後指導でのスキ
ル学習を続けたことで、子どもたちの学習意欲が高まるとともに、基礎・基本の
定着が図られた。学力テストの結果を見ても成果が上がった。

学習環境の整備

2 本校の取組における今後の課題

- ① 少人数指導を行うための準備
少人数指導が効果的であることがわかったが、学年の教師とT T担当の綿密な
打ち合わせや進度別の教材づくりや学習場所の確保など時間的な課題と日課表も
含めた子どもの学習環境の整備が今後の課題としてあげられる。

V 資料

1. 書く力を付けるために

学習環境の整備

「国語の一次感想を書かせた時に、『何も書くことがない。』と平気で言ってしまう子が数人いた。その後の、授業の中でも、『君の考えを聞かせて。』と指名するものの、『何も思いつきません。』と答えるようなことが度々あった。これではいけない。自分の考えをもたせ、表出させる取組を積み重ねなければならない。」
新年度当初のある担任の話である。また、全国学力・学習状況調査の結果からも情報の中から必要な事柄を取り出し、書き換えたり要約したりすることが課題となった。学校評価では子どもたちに表現する力、特に「書く力」を付けさせることで確認した。



☆継続的に無理なくできるよう全学年で取り組む☆

① 行事を通しての「書く活動」

無理なく 継続的に

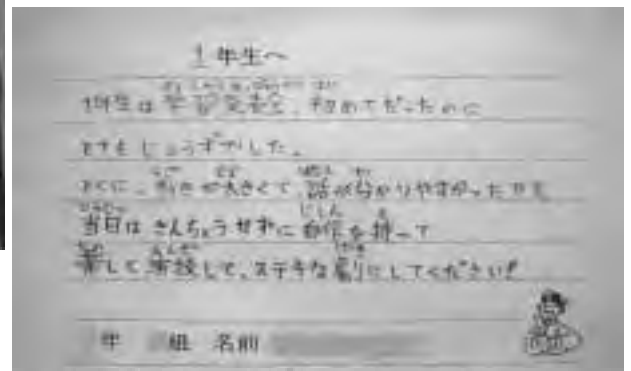
「私は騎手なので、馬の人が重そうにしているのを見て大変そうだと感じています。やっぱり騎馬戦は楽しいですね。人は多くなるけど、4年生も入れてあげたいです。（中略）
次の練習では、だらだらしないで、馬の人たちを疲れさせないようにがんばります。」

これは運動会の練習の時の振り返りカードである。行事の振り返りカードや全校読書月間の中で読書カード作りといった取組をしている。振り返りカードについては無理をせず、練習後、教室に戻った時に短く書き留めている。そして、朝の会や練習を開始する時にいくつかの作品を紹介している。子どもたちは、よい表現にふれたり、認められたりすることで、自分もあんなふうにかきたいとか、次もがんばろうという意欲が生まれた。

学習発表会の感想カード



感想カードを全学年廊下に掲示する



校長先生との
キャッチボール

② 全校朝会での「書く活動」

全校朝会のプログラムの一つとして校長と全校児童の『言葉のキャッチボール』の取組がある。

「春」「夏」と季節ごとに、「季節を見つけた」というタイトルで、全校児童に話しかけ、『季節を見つけたポスト』を校長室前に設置し、子どもの作品を募るという内容である。そして、次の全校朝会で代表的な作品を児童に知らせ、季節を感じる言葉のベスト5を紹介した。

夏のイメージ

ベスト5

- ①いろいろな虫
- ②アイス・こおり水
- ③うみ・花火
- ④クーラー・せんぷうき
- ⑤あつい！



全校朝会での様子

「ぼくは、海の波の音が涼しげに感じました。『ザザー、ザザー』という自然の波がいいなあと思いました。ペダルボートをこいで海に流される感じがとても気持ちいいです。」

短文ではあるが、子どもたちの季節に対する感性がよく表れ、全校朝会で紹介したり、校長室前に全作品を貼り出したりすることで、感性を磨き、友達の作品に触れるよい機会となっている。春は、100通、夏には150通以上のミニ作文が寄せられた。

2. 子どもたちの学習環境作り

①朝のチャレンジタイム

朝 8時30分から45分までの15分間

曜日ごとに
取組を変える

月曜・・・学級タイム
火曜・・・チャレンジ国語
水曜・・・学級タイム
木曜・・・チャレンジ算数
金曜・・・読書タイム

- ・曜日で取り組む内容を変える
- ・国語と算数については、単なるドリルだけでなく、文法問題や文章題・発展的な内容を含んだ教材を使用する。

継続は力なり

②放課後指導（放課後チャレンジ）

- ・基本的に会議のない火曜日に設定
- ・放課後30分間で通年で行う
- ・用事のある子以外全員参加とする
- ・教科は、国語と算数とする

